

| Column |

## ART & CULTURE around 芸劇

# 2022年度「芸劇eyes」 「eyes plus」に注目を!

東京芸術劇場では、若手劇団に上演の機会を提供する提携公演「芸劇eyes」「eyes plus」シリーズの実施に力を入れてきた。本シリーズは東京芸術劇場の演劇プログラムの大きな特徴のひとつで、2022年度は20～30代の主宰者による4団体の公演を上演する。本企画アドバイザーの徳永京子さんによるコメントを4団体の共通チラシからご紹介。本シリーズに、ぜひご注目を!



コロナ禍で生活が変わって2年近く経ちますが、劇場で作品を発表するハードルは上がったままです。とりわけ若い世代には厳しい状況で、こうした中ではやらない選択も、ネットなどで作品を発表する選択も、重要な意味があります。それでも劇場で上演することを選んだ団体には、だからこそできるだけ多くの、そして新しい観客に出会ってほしいと考えています。「演劇は何を観ていいかわからない」「おもしろい劇団が知りたい」「名前は聞いたことがあるが、足を運ぶ機会がなかった」といった声に応えたいと、数ある若手から選び抜いた「芸劇eyes」と、「芸劇eyes」で好評を得た劇団からさらなる飛躍を期して再登場してもらう「eyes plus」。2022年度は各2組というラインナップで、スタイルも題材も見事に異なる顔ぶれとなりました。「芸劇eyes」の「劇団あはひ」(発音は、あわい)は、大学在学中から注目と評価を獲得していた若い劇団で、主に古典をベースに、生と死の繋がりを静かに浮かび上がらせます。「やしやご」は、いわゆる社会的弱者の見えづらい事情や言葉にならない心情をさり気なく深く物語に織り込みます。「eyes plus」の「タカハ劇団」は、アニメ『魔法使いの嫁』やドラマ『ここは今から倫理です。』の脚本で注目される高羽彩が率いる団体で、'13年の「芸劇eyes番外編」以来の登場です。「玉田企画」は、日を追うごとに当日券の人数を増やした'20年の公演を経て、待望の再登場です。全組ご覧いただけたら最高です。

徳永京子 (演劇ジャーナリスト)

## 芸劇eyes

崩れ落ちた要素の掛け算で、彼岸と此岸をふわりと結ぶ。

**劇団あはひ「Letters」**

4/3(日)～10(日)

片隅に佇んでいた人が口を開く時、小さな声は深く届く。

**青年団リンクやしやご**

**「きゃんと、すたんどみー、なう。」**

7/6(水)～17(日)



芸劇が注目する  
才能たち、

## eyes plus

「なぜ？」を燃料にした灯りで、人の心の不思議を照らす。

**タカハ劇団「ヒトラーを画家にする話(仮)」**

7/20(水)～24(日)

「あれは私だ」と思いながら  
爆笑してしまう玉田マジック。

**玉田企画「玉田企画新作(仮)」**

9/23(金)・祝～10/2(日)



いつもと違う、  
をプラスする。

会場:シアターイースト

## INFORMATION

東京芸術劇場では、劇場をご利用になるすべての方の安全と安心のため、新型コロナウイルス感染拡大防止に関する取り組みをおこなっています。ご来館される皆さまは、当劇場ウェブサイトの【東京芸術劇場における新型コロナウイルス感染症対策とご来館される皆さまへのお願い】や館内掲示されている注意事項などを、ご確認ください。



次号の発行は2022年4月1日を予定しています。

### 〈鑑賞サポート〉について

東京芸術劇場では、一部の事業で、視覚・聴覚障害者のための舞台鑑賞サポートやヒアリンググループ、各種割引、託児サービスなどの〈鑑賞サポート〉を行っております。ぜひご利用ください。詳細 ▶ 劇場HP内「鑑賞のサポート」ページ  
[www.geigeki.jp/access/support.html](http://www.geigeki.jp/access/support.html)

新型コロナウイルス感染症対応のため、掲載情報に変更がでる場合がございます。

最新情報は、東京芸術劇場や各主催者のHP等でご確認ください。

# 東京 芸術 劇場

Tokyo  
Metropolitan  
Theatre